秋号
The letter of Shinseisakuza
kunlapopolo・・・人々の中で人々と共に・・・
新制作座だより vol.14
2017 AUTUMN
http://www.shinseisakuza.com

【泥かぶら】

「泥かぶら」が生まれた町で
―8月22～25日 愛知県一宮市教育委員会公演―

子どもの自殺くらい悲しく辛いことは・・ない。
「泥かぶら」は、この重い問いかけの渦の中で、3年

愛知県一宮市教育委員会公演　中野教育長と一緒に

ぶりの一宮公演の幕を開けました。俳優もスタッフも皆緊張し、客席の子どもたちの小さな反応にも敏感になっていました。

4日間で全8回公演、毎回約1500人の前で一切マイクを使わないため、特に主役の「泥かぶら」がやり通せるか心配でしたが、舞台へ子どもたちからの大きなパワーが伝わってきて助けてくれている、やれる・・と感じました。カーテンコールで、「お礼の言葉」を述べる生徒さん代表のスピーチは、時に声を詰まらせ沈黙もありながら、堂々と自分の感じたこと考えたことを生き生きと語り、私たちは幕の後ろで感

客席の様子

動して涙していました。
　自分自身を変えたい、一人ぼっちで苦しむ人がいない世界を作りたい、だから無関心と戦わなくてはと、子どもたちの心は激しく動いていました。
　紡績工場が軒を並べていた一宮の街で生まれた演劇「泥かぶら」は、65年を経た今も人々に呼びかけます。〝人間は本来、美しく、豊かに生きることを愛しているのです。意欲を持って下さい。意志を持って下さい〟と。

（記・小津和 知穂）

＊＊＊

―観客の声

愛知県一宮市立千秋中学校
校長 川口和彦様より

「泥かぶら」から学んだこと

　一宮市では3年に一度、夏休みの4日間をかけて全19中学校の生徒が市民会館で「泥かぶら」を鑑賞します。本校は、8月25日の午前中に鑑賞しました。
　7月末に、長年「泥かぶら」を演じてこられた小津和知穂さんを本校にお招きし、「泥かぶら」が一宮市で生まれた歴史や見どころ・演じる役者さんたちの思いを語ってもらってから観劇会に臨みました。観劇会後の生徒の感想文を読むと、自分のこれからの生き方に大きな影響を受けるようなたくさんの学びがあったと感じました。
　人の身になって思うことを忘れず、1日1日を過ごしていきたい。「泥かぶら」のような明るさや優しさを持てるようになりたいと思う。自分も人の内面の美しさを感じられるように変わりたい。心が負けそうになったとしても、笑顔を忘れないで生きていきたい。
　今回の観劇会が、生徒たちの今後の生き方に少しでもプラスになってくれることを期待しています。

＊＊＊

川口和彦校長の筆によるポスター

［ドラマティックリーディング］「八郎・泥かぶら」北海道へ

―9月3～6日 新冠町・厚真町・札幌市 公演―

夏の長雨でじめじめした東京を離れ新千歳空港に降り立った9月3日、北海道は晴天に恵まれ気持ちの良い秋を迎えていました。
　私たちは二手に分かれ、音響照明機材などを積んだワゴン車組3人は、2日に東京を出発、陸路とフェリーで札幌を目指し、飛行機で移動した私たち3人と新千歳空港でおち合い、最初の公演地新冠町を目指しました。「新冠町レ・コード館」は新冠の道の駅に併設した、言ってみればレコードの図書館で、その中にある90席程のステージを備えたシアターは、正にドラマティックリーディング「八郎・泥かぶら」には、持ってこいの会場でした。
　絵本「泥かぶら」から繋がった、筒井凡枝さんの主催で開かれた公演は、新冠町の自然の美しさと相まって暖かい観客席の反応が心に残りました。

ドラマティックリーディング「泥かぶら」

　翌日4日は厚真町教育委員会主催で午前は小学生、午後は中学生の2回公演。最初から最後まで集中して聞いてくれて、フィナーレに加えたソーラン節を男性3人で踊ると、元気に掛け声を掛け、手拍子を打って応援してくれた子どもたちの顔顔が忘れられません。
　5日は休日をいただき、6日は私たちの仲間である星槎国際高等学校札幌学習センターと星槎もみじ中学校の公演でした。札幌市郊外に位置する元公立小学校だった校舎は、造りがゆったり

としていて、さすがは土地の広い北海道ならではと思いました。

演劇部が活発に活動している札幌学習センターの生徒だけあって、吸い取り紙が水を吸うように演者の一言一言を理解し感じ考えていることが伝わってくる公演でした。

ドラマティックリーディング「八郎・泥かぶら」に確かな手応えと発展の可能性を感じ、これから増々磨きをかけ、良い物にしたいと考えています。

（記・眞山 蘭里）

「新冠町 レ・コード館」にて

【泥かぶら】
素晴らしかった童役
―9月20日 群馬県伊勢崎市 四ツ葉学園公演―

毎回、公演に決まった学校にお願いして生徒さんに童役で2～3名参加してもらっています。決まるタイミングは様々で、立候補する生徒もいれば、なかなか決まらない所もあって、ご担当の先生方の苦労があるようです。今回の学校は演劇部があるということですぐに決まるでしょうとのことでしたが、あえて未経験者の生徒も選んでほしいとお願いしました。

私は、この年代の生徒さんにはいろんなことを経験してほしいと思うことと、舞台に立ったことが一生の思い出になり、生きていく中で絶対に役に立つ！と思うからです。そして、女子2名と男子1名が決まりました。

公演当日は会場の伊勢崎市文化会館に先生に連れられ、最初は緊張したようすでした。しかし、劇団員と稽古した後の場あたり*の時、自然にこの作品の中に溶け込んで全く違和感なく、3人とも本当に素晴らしかったのです！

特にすごいと思ったのは柿の枝を持って出る子の見事な走り。思わず〝良い！〟と言ってしまった。そしてそれが中学1年生の演劇未経験の男子だったこと。

いつも童役にはドキドキさせられますが、楽しみでもある公演の醍醐味です。さて次回の童役はどんな子が来るだろう？

（記・亀川 忠助）

四ツ葉学園　村の童役の生徒たち

＊場あたり…本番前に舞台上の立ち位置や動き、声の大きさなどの調整や確認をすること。

【星槎グループ】
星槎レイクアリーナ箱根 館長
井上洋二さんより
「泥かぶら」箱根・仙石原公演

つ いにきた。9月24日が！「泥かぶら」の公演の日が！

朝起きたら、ドキドキした心臓の音がほどよい緊張感を与えてくれる。そして、天気は快晴。いつもより早く職場に行って一服をしながら考えた。「どれくらいの人が来るかなぁ～」、「みんな楽しんでくれるかなぁ～」、「満足してくれるかなぁ～」…

アリーナに劇場を創る

［泥かぶら］

生徒さんと共に創った一日

―10月4日 星槎学園合同芸術鑑賞会―

川崎市教育文化会館で星槎学園の湘南校、北斗校、横浜ポートサイド校、大宮校の生徒さん約600名が「泥かぶら」を観てくれました。この4校で生徒さんが入れ替わる度に観て、今年で4回目を迎えました。今回も先生方はいろいろな御苦労を乗り越えながら、この公演を創ってくださいました。

9人の出演者だが裏方がいっぱいで舞台が段々できていく。照明が灯される。音響が鳴り響く。観客席がセットでき…四方が幕に囲まれていく。

舞台の幕が開き、おじいさんのお話で会場のざわめきが止まり、観客は引き込まれていった。赤ちゃんをあやしながら観ているママ、目を大きく開けて食い入るように観ている子どもたち、終盤には涙したおじいちゃん、おばあちゃんたち。地元の子どもも出演し、舞台は観客を十分魅了し無事終わった。

この舞台を迎えるにあたって新制作座の方はもちろんのこと、宣伝や応援をしてくれた町内の方々に心から感謝いたします。また、箱根にいらしてください。

童役の生徒さんは男子2人で、1人は男の童、もう1人は女の童になり、何とも愛らしく変身しました。短い稽古の中でよく演じてくれました。生徒さんたちも実によく見てくださいました。

舞台終了後、北斗校の渡辺校長先生からのご挨拶で「後ろから観ていても、だんだんと生徒が舞台に引き込まれて行くのが良く分かりました。生徒一人一人の心に泥かぶらが届いたと思います」とおっしゃってくださいました。

私は生徒さんお一人お一人が「泥かぶら」のように、これからの人生の中で自らの価値に目覚めていっていただけたらと願っています。

今まで何度も上演してきた教育文化会館が閉館するそうです。私たちも更に勉強を重ね、3年後、また新しい会館で「泥かぶら」をお届けできますように！

（記・木村 幸子）

来年4月に閉館する川崎市教育文化会館

［研修］

劇場を創れる日が来るまで

―体育館の舞台設営研修―

何もない空間に一つの劇場を造ってしまう。その技術なくして今日の新制作座は無かったのではないでしょうか。

劇団に参加させていただいてから数年経ちましたが、完成した舞台を初めて見た時の感動を、私は今も忘れる事ができません。そして今夏、我々若手陣への指導のため、ご多忙の中、諸先輩方が舞台作りの研修会を開いてくださいました。私自身、劇団の演出部の技術は兼ねてから勉強したい、と思っていた事もあり、この一日で何か掴める事ができれば…と参加させていただきました。

その結果は、惨敗。先輩の指示を理解する事ができず、無我夢中でこなそうとすれば逆に足を引っ張ってしまう。改めて舞台作りの難しさを噛み締め、同時に自分の考えの甘さ、力不足を再認識させられた一日でした。

まだまだ未熟な身ではありますが、自分たち若手の手で「劇場を創れる」日が来るまで、勉強を重ねていこうと思います。

（記・高城 忠義）

八王子城山中学校体育館での舞台設営研修

劇団員の紹介 No.03

原 泰賢
yasukata hara

このコーナーは、劇団員の活動秘話などをとりあげ、一人ずつご紹介します。

[プロフィール]

1963年26歳で入団。劇団の音楽を担い、眞山美保先生から“原ちゃんアコ”の一言で、数々の場面で劇団の曲を奏でてきた。

[Q & A]

Q 原さんにとって新制作座とは？

Ⓐ 言葉ではいい尽くせないことを一言では難しいなぁ“生きがい”なんて言っちゃうとなんか違う感じなんだよな、、、。

Q 入団当時の夢や志は？

Ⓐ 大学に通いながら劇団友の会に入っていたが、「泥かぶら」「馬五郎一座顛末記」「新制作座フェスティバル」を見て立ち上がれないくらいショックを受けた。劇団員は、何をやるのも真剣、笑うのだって心底笑い、みんなキラキラと輝いていて、こんな奴らと一緒にやっていけたらいいなと思った。無論迷いもあったけれど、この劇団を選んだ自分に勲章をあげたい。

Q 携わった作品の役柄や役割、印象に残るエピソードは？

Ⓐ 役割は、やはり楽器。ピアノ、アコーディオン。「新制作座フェスティバル」では舞台奏者の役で、いくつもの場面で自然に馴染むよう演じた。「野盗、風の中を走る」では、弥助役。「万国旗の子」では黒人サムの役。あれは工夫しがいがある楽しい役で、客席や舞台の広さでタイミングを考えて演奏する。ああゆう表現をするのは難しいが面白い。何気なく、自然で印象に残る存在、後になって黒人が弾いてたな、なかなかいい雰囲気だった、なーんて話のついでに出てくるような役者だといいな。伴奏者は目立ってはいけないんですよ。客席にわからないように気持ちを高めてテンポを調整してる。指揮者はいないが、みんなが意識していればチームワークでうまくいく。

Q 演奏にまつわる話しを教えてください。

Ⓐ “原ちゃん、わかんない？この曲”って、美保先生が側で鼻声でふんふんふんっ♪てやって、宴会場やパーティで次この曲ねって、名前が出てこない。「マイウェイ」弾いてる最中に、次の注文も来て、別の頭出しを考えながら演奏する。なんていう事もあった。こんな事もあるんだなと心構えしていれば何が来ても慌てないで何とか済む。その、あ・うんの呼吸のような感覚は他の人には味わえないね。仕事だけど仕事とは思えない、やったぜ！という瞬間がある。美保先生も、この男には通じるって。そんなこんなが全部あってやりがいになっている。

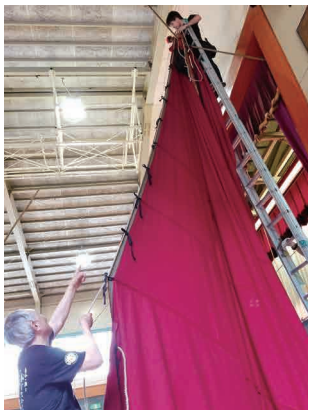
Q 今後の夢や目標は？

Ⓐ とにかく一番に、劇団に貢献できることを考えていて、DTM（DeskTopMusic）伴奏楽曲を作れるようになりたい。

[イベント]

夏といえば！
―7月20日 サマーランド&BBQ―

今年もやってきました！新制作座夏企画『サマーランド&BBQ』。新メンバーも加わり、一つの舞台を作り上げるには全員の結束力が大事です。というものの、我が劇団は楽しい事は大人数の方が良い！の考えなので、懐かしいメンバーも参加し、今年も大はしゃぎの一日でした。昨年、子どもの水鉄砲を借りたMVPのS先輩は「今年はおとなしく行く」と言っていましたが、今年は後輩のT君がやってくれました。他人のスワンボートを施設のだと勘違いし、使用してしまったのです。持ち主の方が申し訳なさそうにしていて、何とも可笑し



柱を立てて、緞帳幕を張る

BBQで食べて飲んで歌った夏の１日

サマーランドにて

な一場面でした。
プールを満喫した後は夏の醍醐味、BBQです。食べて、飲んで、隠し芸を披露して、最後はグリークラブの先輩方の美しい歌声で幕を閉めました。
今年の夏企画も無事に終わり、後は次の公演に向けて一致団結し、突っ走るのみです。
今年のMVPは誰かって？やっぱり新制作座のムードメーカーS先輩でしょう！
来年もよろしくお願いします。

（記・福島 里佳）

TOPICS

日中の友情に、貢献出来ることを探して
―9月28日 国慶節のパーティー―

今年も国慶節のパーティにご招待いただき、昨年の訪中メンバー6名で、ホテルニューオータニへ。
日中国交正常化45周年の記念の年でもあり、更に、来賓として内閣総理大臣はじめ内閣閣僚がほぼ勢揃いしたこともあって、大盛会でした。中国という国が、日本にとって如何に重要な存在であるのか、肌で感じることができます。
我々女性陣は、今回も振り袖に身を包み大変喜んでいただきましたが、大使閣下のスピーチを聞き、会場で花を添える意味で立っているだけの存在ではいけないと、身が引き締まる思いがしました。
中国と日本の国交正常化までの道程、以後45年間の友情は、訪中の際も感じたように、中国と日本の先人方が双方不断の努力で獲得し、大切に繋いで来たものです。それが、今この式典の和やかな熱気を作り上げ、これから自分たちの世代に引き継がれていこうとしている。より一層、この関係を大切に守り発展させていく役目があるのだと、改めて肝に命じました。
来年のこの日には「日中友好の燕」に一歩近づいた自分であれるように、先輩方と共に日々想い感じて、行動していきたいと思います。

（記・上杉 綾）

国慶節のパーティにて、日本雲南聯誼協会 初鹿野惠蘭さんと（右から2人目・雲南省少数民族チッベト族の衣装）

熟年グリークラブ誕生！

あのハーモニーをもう一度・・・そういう夢を抱いて、往年の新制作座フェスティバルの戦士たちが、平均年齢70歳のグリークラブを結成しました。
眞山美保作詩の歌を中心に、毎週金曜日の夜、リーダーの原泰賢君宅のピアノを囲んで猛稽古に励んでいます。
メンバーの一人で栃木県野木町在住の関口佳男君、「新制作座から歌ごえを絶やしてはならない！」と、切なる思いで、毎週片道3時間も車を走らせて稽古に通っています。
初ステージは10月7日、星槎国際高等学校八王子・立川学習センターおやじの会のバーベキューパーティに出演、「さらばジャマイカ」「ヒッチハイク」「最上川舟歌」などを熱唱しました。昔の〝はじけるような若さ〟にも負けない、昭和のスウィートボイスは健在、〝熟年のハーモニー〟で眞山先生の詩をじっくりと歌いあげて、あたたかい拍手に包まれました。
次回の出番はクリスマスかな？
乞う、ご期待！

（記・込山 虔二郎）

星槎国際高等学校八王子・立川学習センターおやじの会のBBQパーティにて

爽やかな秋の日に
―新制作座合同法要―

劇団創立者の一人、故 槇村先生の17回目の命日の前日、10月8日の爽やかな秋晴れの日に劇団員物故者、眞山美保先生初め、20数名の方たちの合同法要を執り行いました。

宝泉寺ご住職の読経を聴きながら劇団創立当時から眞山美保先生と共に劇団活動を支え、人生を全うされた先輩方、若くして鬼籍に入った後輩、同輩の一人一人との、あの日この日を思い出していました。

現在、劇団活動に参加している若い人たちも一緒に参加した法要の後、事ある毎に歌った唄「マイウェイ」と劇団歌「人々の中で人々と共に」を霊前に捧げ、これからも先輩たちが残されたこの道を歩き続ける事を誓い合いました。その後、眞山先生が劇団員のために用意してくださったモニュメント（劇団員全員が入れる共同墓地です）にもお参りしました。若い人たちも劇団の歴史を感じてくれた事と思います。

お忙しい中ご参列くださった桑原寿紀先生、石田薫様ありがとうございました。合掌。

（記・山形 久人）

自然豊かな上川霊園の記念碑の前で

「マヤマ ファミリー モニュメント委員会」からのお知らせ

八王子市の上川霊園に新制作座の共同墓地があります。劇団の後援者・友人の方々の永代供養を受付ておりますので、ご相談ください。

MAYAMA Family Monument

大理石に刻まれた眞山美保の詩

なごみのコラム

―みなしご？からアイドル猫へ―

「うめちゃん奮闘記」

（聞き書き：江﨑 はんな）

Illustration: Chiho Kozuwa

私“うめ”と申します。いつの頃からか、そう呼ばれるようになりました。

下積み時代は覚えきれないほど色々な名前で呼ばれてた。その頃“ノラ”とも言われてたけど、“ノラ”って何？　大きなトラ猫に食べ物を横取りされたり追いかけられたり、悔しい思いや怖い思いを沢山したけど、それが“ノラ”ってことなの？

でも今は幸せ。ここの人たちは私を見るとみんな言うの。「可愛いい～っ」って。「いいこ」と言ってなでてくれたり、毎日おいしいごはんを食べさせてくれる人もいる。中には「うめは表現力があるし、頭もいいよ」「私、あの鳴き声が切なくて一」「甘え方もうまいよ。ジーッと目を見たり、待っていて目の前にとび出してきたり」「それは必死の努力なのよ。生きるためのね」「えらいねぇ、うめちゃんは」などなど言う人もいる。わかるようなわからないような言葉もあるけど、一生懸命はホント。だってみんなといると幸せなんだもの。

みなさん、私を見かけたら声をかけてね。私も立ち止って挨拶を返しますから。

江﨑さんとうめ（写真上）　甘えるうめちゃん（写真下）

「泥かぶら」福岡公演 無料ご招待（限定100名様）

【星槎国際高等学校 福岡中央学習センター・福岡東学習センター】
日時: 2017年11月2日（木） 開演13:30
会場: 福岡市立博多市民センター
限定100名様、無料ご招待（招待券が必要です）
お問い合わせ: 下記、NPO法人 劇団新制作座まで

「泥かぶら」一般公演開催のお知らせ

【星槎国際高等学校八王子学習センター10周年記念公演】
日時: 2018年1月8日（月） 開演14:00
会場: 八王子市芸術文化会館「いちょうホール」
〒192-0066 八王子市本町24-1
※観劇料金などの詳細は、新制作座のWebサイト（http://www.shinseisakuza.com）に近日アップいたします。

新制作座 クリスマスパーティ2017

日時: 2017年12月23日（土）
16:30受付 17:00～20:00（予定）
会場: 劇団 新制作座［星槎高尾キャンパス食堂］
会費: 大人:3,500円 こども:1,500円
未就学児童無料
※参加を申し込まれる方は、12月16日までに、劇団本部にご連絡ください。

25 地域 2017年（平成29年）9月7日（木曜日） 山陰中

石見 西部本社 TEL0855(22)0109 益田総局 大田支局

美郷町 ふるさと大使新設
ゆかりある2人快諾
なぎらさん、福島さん

福島里佳さん
なぎら健壱さん

美郷町は、町の魅力を広く発信してもらおうと、町にゆかりの深い人らを任命する「美郷町ふるさと大使」を新設し、シンガー・ソングライターでタレントのなぎら健壱さん(65)＝東京都在住＝と、劇団新制作座（東京都八王子市）の団員として活躍する福島里佳さん(29)＝同＝に1日付で委嘱した。

独特の風貌とキャラクターで人気があり、東京・下町などをテーマにした著述活動にも力を注いでいるなぎらさんは、東京・銀座の生まれだが、父親と妻がともに同町出身というゆかりがある。福島さんも同町出身という関わりがあり、町が2人に就任を打診し、快諾を得たという。

委嘱状は今後交付し、ふるさと大使の名刺も渡すという。景山良材町長は「町の魅力や情報を積極的に発信してもらい、全国へのPRが進むことを期待している」と述べた。

ふるさと大使の新設は、「美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に盛り込んだ施策の一つで、任期は定めていない。（福間崇広）

“演劇「泥かぶら」の主演俳優 福島里佳が、島根県美郷町の「ふるさと大使」に任命されました。”

「泥かぶら」島根県美郷町・川本町 記念公演 決定!!! 前売り券絶賛発売中

【「泥かぶら」美郷町一般公演】
日時: 2017年11月5日（日） 開場13:30 開演14:00
会場: みさと館（島根県邑智郡美郷町） **観劇券:** 1,000円
お問い合わせ: 美郷町教育委員会 TEL: 0855-75-1217（担当:岩谷）

【「泥かぶら」川本町一般公演】
日時: 2017年11月4日（土） 開場18:00 開演18:30
会場: 悠邑ふるさと会館（島根県邑智郡川本町） **観劇券:** 1,000円
お問い合わせ: 川本町教育委員会 TEL: 0855-72-0001（担当:高木）

吉例顔見世大歌舞伎のお知らせ

真山青果 作・真山美保 演出
元禄忠臣蔵
「大石最後の一日」

日時: 2017年11月1日（水）初日
→25日（土）千秋楽
【夜の部】午後4時30分開演
（夜の部の3本目です）
会場: 歌舞伎座

※平成30年、二代目 松本白鸚を襲名する幸四郎丈の最後の大石内蔵助役の舞台となります。

劇団 新制作座
［新制作座だより］第14号 2017年10月20日 発行
発行：NPO法人 劇団 新制作座 〒193-0826 東京都八王子市元八王子町2-1419
tel: 042-661-0001 fax: 042-661-6702 e-mail: info@shinseisakuza.com